

「一般社団法人 清水沢プロジェクト」の活動紹介

(一財)北海道開発協会が行っている地域活性化活動助成^{*1}は、地域活性化のモデルとなるような市民団体等の活動を支援するものです。

今回レポートする助成団体は、令和元年度助成活動団体の「一般社団法人清水沢プロジェクト^{*2} (代表理事：佐藤真奈美氏)、(以下、「清水沢プロジェクト」という)」です。助成対象活動は、「炭鉱遺産を活用したともに歩むまちづくり『清水沢エコミュージアム』活動の推進」です。

清水沢プロジェクトは、平成28年5月に一般社団の法人格を取得、炭鉱遺産の保存活用事業をはじめとする産業遺産ツーリズムを展開しています。炭鉱遺産や炭鉱由来の様々な施設の中で、今もなお生活が営まれている清水沢地区を拠点に活動しています。

炭都として栄えた夕張市の中心部に位置する清水沢地区には、有形無形の炭鉱遺産が数多くあります。とくに北炭(北炭清水沢炭鉱)の石炭産出ルートは、遺構の数こそ少ないながらも、当時の産炭地空間がまるごと残っており、実際に歩いたり、ズリ山^{*3}の上から眺めたりすることで、石炭産出の仕組みを体感できます。そこで「まちじゅうまるごと博物館」をコンセプトに、地域内外の人が協同して「清水沢エコミュージアム」をつくる活動が行われています。

清水沢プロジェクトでは、平成20年度から旧北炭清水沢火力発電所・ズリ山の利活用、JR清水沢駅展示会の企画等を通じて、地域内外の人々が出会い、関わりを深める場づくりを行っています。清水沢プロジェクトの活動は、夕張市地方版総合戦略における交流人口の創出を目指した地域交流プラットフォームとしても位置づけられています。

平成28年には、活動拠点となる「清水沢コミュニティゲート」が開設されました。「清水沢コミュニティゲート」の建物は、昭和47年に北炭が建設した鉱員住宅(「縦割り」と呼ばれる2階建ての1棟4戸)の内装を利用目的によって改修した施設で、地域の一員として活動したい人の施設とするほか、地域住民との接し方をアドバイスする「門番」の役割も担っています。施設は、



ズリ山から見える炭鉱住宅街

通年利用が可能です。数日間の滞在を通じて夕張の生活文化を体験でき、滞在期間は平均1週間程度となっています。なかには1カ月にわたって滞在し活動するアーティストもいます。滞在中、まちの人との交流によって譲り受けた石炭細工の「黒い玉」を通して見えたまちの様子などを、一冊の本にまとめた人もいます。

また、同施設では、月に1度「ゆうぱりこども食堂」が開催され、運営メンバーは、子どもたちが炭鉱住宅に集まってゲームや食事を共にすることで、少しでもまちの歴史を学び育ってほしいと考えています。



こども食堂で楽しく食事する子どもたち

今回、清水沢プロジェクトの佐藤代表に最初に案内をいただいた場所は、夕張市のシンボリックな炭鉱遺産の一つ、「清水沢アートパワープラント(旧北炭清水沢火力発電所)」です。大正15年に完成した火力発電所は、北炭の自家発電所(最大出力74,500kw)として稼働し、日本国内でも有数の火力発電施設でしたが、平成4年、周辺炭鉱の閉山によって廃止となりました。その後、建物は全体の4分の3ほどが解体されましたが、平成23年に、この施設をメイン会場として、学生たちが中心となって行った現代アートイベント「夕張清水沢アートプロジェクト」の開催を契機に、解体作

*1 <https://www.hkk.or.jp/kenkyusho/chiki.html>

*2 <https://www.shimizusawa.com/>

*3 ズリ山は、採掘後の石炭を選別した際にでる不要な岩石類(ズリ)を積み上げた人工の山



清水沢アートパワープラントの歴史や建物内部に残る当時の設備等を説明する佐藤代表（左）

業は一時中止されています。所有企業の東亜建材工業(株)は、「遺産」であるとともに「資源再生の場」でもあることを見てほしいという意向があり、施設の一部を活用した公開事業・芸術文化活動が行われています。施設内には大理石を使用した配電盤やクレーン等が当時のまま残されています。

佐藤代表のお話では、見学ガイドとして、一方的な説明をするだけでなく、タブレットを使い、時代ごとの写真と見比べたり、参加者の好奇心を誘発するような対話を心がけているようです。参加型の見学とすることで、思わぬ発見もあるそうです。



大理石が使用された配電盤



当時に設置された大正14年製、にじゅうごとん 貳拾五噸クレーン



鉄骨にSEITETSUSHO YAWATAと官営八幡製鉄所の企業マークが残る

次に「ズリ山」に行きました。清水沢地区には三つのズリ山があるそうです。現在では草木が茂り一見分かりづらくはなっていますが、ズリ山の山頂へと登るとその形跡が確認できました。清水沢プロジェクトで



整備された階段。手前はアート作品を利活用したベンチ



毎年7月に行うズリ山の整備活動の様子

は、最も大きな初代のズリ山を活用し、地域住民や有志の方々と周囲の草刈りや、階段、ベンチなどを整備し、散歩コースや子どもたちの遊び場としています。ズリ山には10分程度で登ることができます。山頂からは清水沢地区の街並みが一望でき、かつての炭鉱の歴史や、いまもここで暮らす人々の営みが感じられるような場所でした。

最後に訪れた「宮前浴場」は、昭和45年に設置された炭鉱の地区浴場で、夕張市内に残る最後の地区浴場です。炭鉱住宅には、浴室を備える職員住宅と異なり、浴室のない鉱員住宅地区には地区浴場が設置されています。地区浴場は、女性や子どもが利用することから、女性側の浴場を広く造る特徴があるそうです。

現在、夕張市が推進するコンパクトシティでは、清水沢の新たな公営住宅が核となっていますが、鉱員住宅から浴室付きの住宅へと住み替えても、宮前浴場を利用する方が多くいるそうです。昭和、平成、そして令和へと時代が移り変わっても、地域の大切なよりどころなのかもしれません。清水沢プロジェクトは、こうした宮前浴場の利用者増加のため、入浴券付きのオリジナルタオルを作成販売するなどの活動も行っています。

今回の清水沢プロジェクト訪問を通じて、炭鉱遺産という地域資源に新たな価値を見出すことによって、地域住民が自分たちのまちに誇りを持つことができ、コミュニティゲートや見学ガイドによってもたらされる人的交流が夕張ファン創出へと繋つながっていくと感じました。今後のさらなる展開の可能性に期待します。



夕張市内に残る最後の炭鉱地区浴場（現：市営宮前浴場）



清水沢まちあるき